



駅であいましょう

南口駅前広場と地下道

## 新たな風を、「つなぐ」駅。

いつも何気なく通っていた「高蔵寺駅」。最近様子が変わってきたと感じていませんか？改札前は明るくゆったり、にぎやかに。お買い物を楽しんだり、誰かしらが奏でるピアノの音色に立ち止まったり、ベンチに座って耳を傾ける人々もいて、楽しそう。南口駅前広場も、すっきりとしたデザインに一新。屋根越しに届く光が時間とともに表情を変えていく様子、風そよぐ木陰のベンチなど、待ち合わせも心地よく過ごせる憩いの場へ。

高蔵寺のまちが成熟し、その玄関口である駅は、さらに豊かな発展をめざす先駆けとして、いま新しく生まれ変わろうとしています。

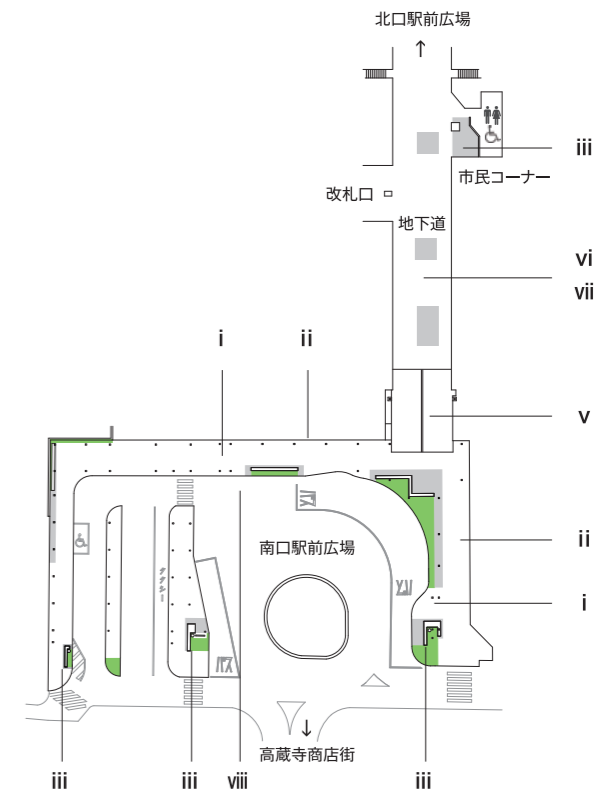
さて、そうした高蔵寺の駅や街の風景をかたちづくるモノやコトに、どんな考えや想いが込められているか、想像してみたことはあるでしょうか？

このコンセプトブックは、高蔵寺のことをもっと深く知るための「まちのしおり」として作りました。交通を通して「つなぐ」というこれまでの駅の役割に加え、新たな「つなぐ」をテーマにした仕掛けや取り組みに触れ、これまで気づかなかった魅力を発見することで、さらにまちへの愛着も深まることでしょう。

ひと、まち、にぎわい、時間…リフレッシュし続ける「つなぐ」に、駅であいましょう。

## もくじ

|      |           |         |
|------|-----------|---------|
| i    | 新旧をつなぐ    | …… p. 5 |
| ii   | ひととつなぐ    | …… p. 7 |
| iii  | まちとつなぐ    | …… p. 9 |
| iv   | 素材と色でつなぐ  | …… p.13 |
| v    | 地下道とつなぐ   | …… p.17 |
| vi   | 南北をつなぐ    | …… p.21 |
| vii  | カタチでつなぐ   | …… p.23 |
| viii | 光でつなぐ     | …… p.25 |
| ix   | 連載   駅のかお | …… p.27 |





## おかえりなさいの場所

灯ともしごろ、改札から出てきた人たちは、足早に地下道を通り抜け、駅前広場へと向かっていく。駅前広場では、迎いの車に乗り込む人、バスやタクシーを待つ仕事帰りの人、部活帰りの高校生など、それぞれの「ただいま」と言える場所へと帰っていく。

もしも、駅が“毎日の通過点”としてではなく、「集い」「語らい」「学び」「楽しめる」場へと変わったら。「ただいま!」と言う声が、そこここに響きあうようになるかもしれません。

高蔵寺が、ニュータウンが、さらに魅力あふれるまちとなるよう、その玄関口である駅を、アットホームな“みちくさの場”へと生まれ変わらせたい!ここで生まれ育った人や新たに訪れる人、すべての人を、「おかえりなさい」と迎えられる場所となることを夢見て。

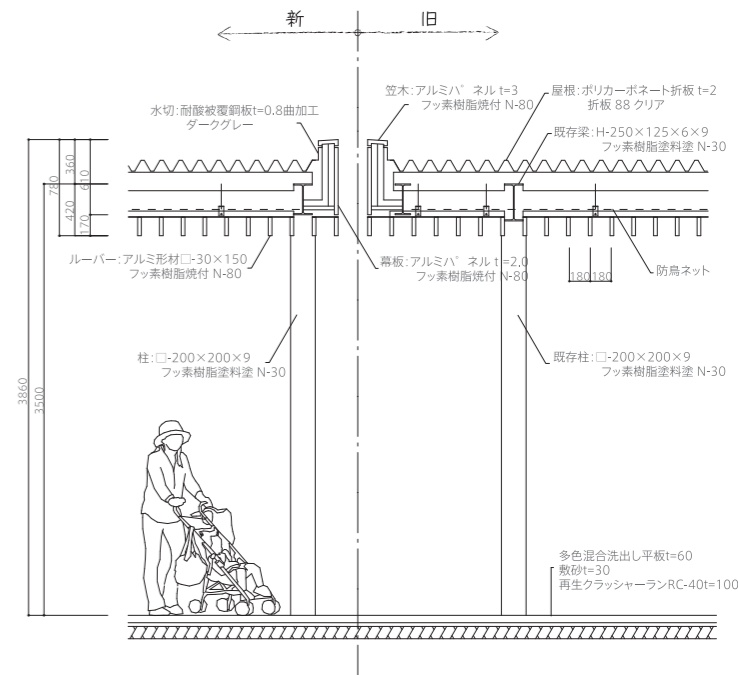


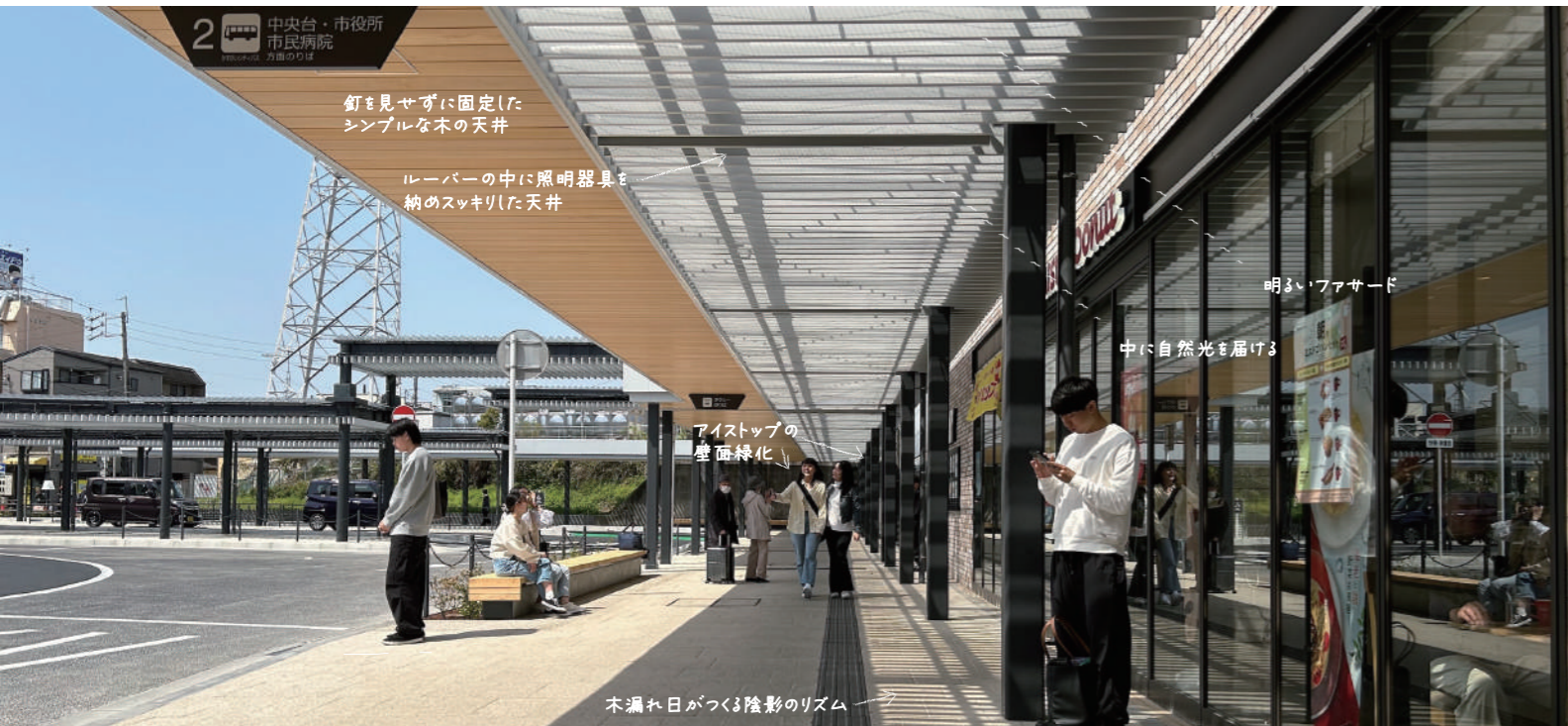
## 新旧をつなぐ

今から40年ほど前に設置された、南口バス停の屋根。がっしりと存在感のあるデザインで、天井の所々に明かり取りの窓があり、昼は歩く人たちに光を届けてきました。外装全体は少し古びてきた印象ではあるものの、まだまだ骨組みは現役です。

タクシーや迎えの車を待つ人などが使いやすいよう、駅前広場の西側に屋根を増設するための新しい骨組みを作りました。東側のバス停は、従来の骨組みをそのまま利用し、全体から光が入る新しい屋根に葺き替えています。

すべてを作り変えるのではなく、新旧をつなぐデザインによってリフレッシュしました。



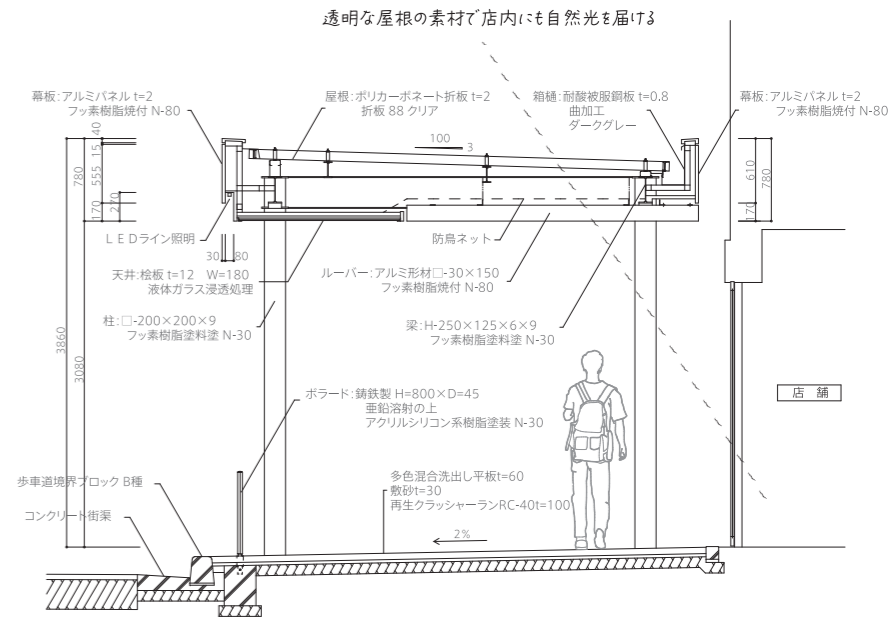


## ひとつつなぐ

天気の良い日は光を感じながら、雨の日は傘をささずおしゃべりしながら歩きたい。街から駅に続く動線には、日々歩くのが楽しくなるような通路があったら嬉しいはず。

行き交う人たちには木漏れ日のような光が届き、バスやタクシー、車を待つ人には優しい日陰ができるように、四季折々のゆらぎを感じられるプロムナードが生まれました。

通路の一角のみどりのカーテンには、陽の光があたってキラキラと目に楽しい。通路でありながら、足を止め、ゆっくりとした時間の移ろいを感じられたり、ふとした出会いや発見が生まれる“遊歩道”のイメージです。





みどりに光と水も届ける

リビングにあるような  
スタンドライト

インテリア家具のような  
細やかなつくりの座板のベンチ

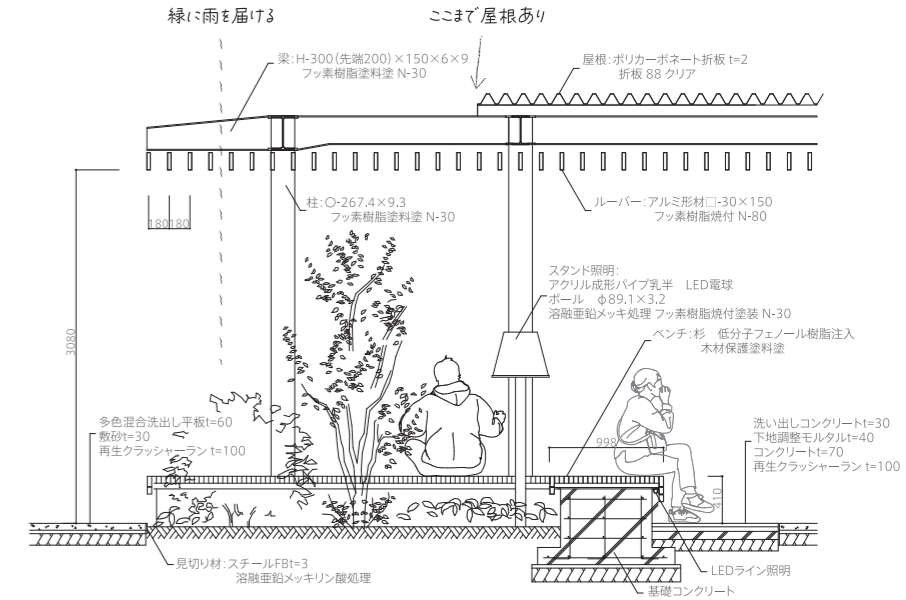
高森山から継承したみどり

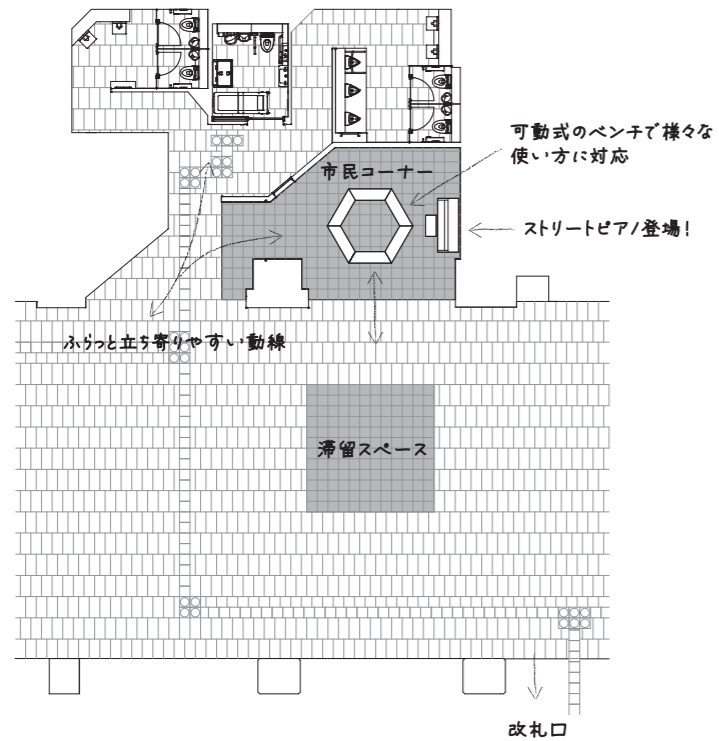
## まちとつなぐ

昼は木陰のベンチでちょっとおしゃべり、夜はスタンドライトの灯りのもてくつろいで。そんな家のリビングのような場所が駅前であれば、バスを待つのも和やかに有意義に過ごせそうです。

行き交う人達が立ち寄りやすい形に開かれた市民コーナーには、ベンチとともに一台のピアノを設置。耳に心地よい調べが、地下道にも鳴り響いて、日々の足取りをいっそう軽やかにしてくれます。

待ち合わせに使ったり、一休みしたり、名残惜しい別れ際のおしゃべりなど、駅を接点にひととひとがほっと和める、小さな場所ができました。





## 素材と色でつなく

通行と滞留のエリアが素材や色・形状によって緩やかに区分されています。この場所を訪れ交流したり、リラックスして過ごす人々が主役と考え、滞留の場を中心に、豊かな緑とともに駅前広場の日常の景色として溶け込むような素材や色を選んで配置しました。

あたたかみを感じさせる木材を中心に、落ち着きある色を使い、「ようこそ、ごゆっくり」と自然に招き入れるようなおもてなしの空間。そんなナチュラルなスタイルこそが、“高蔵寺らしさ”なのかもしれません。



柱などは、樹木の幹のように明るさを抑えた無彩色とし、光の反射をおさえることで、存在が気にならないようにしています。

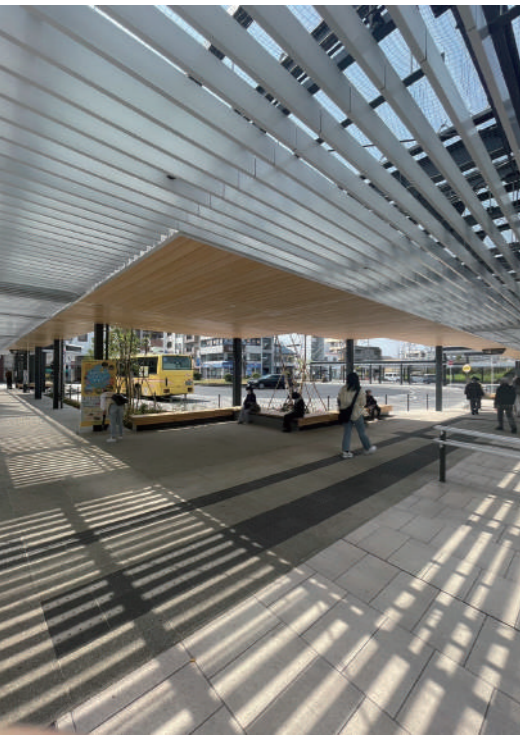


天井は、明るい無彩色の金属パネルやルーバーとし、照明の光や自然光を反射させることで明るい空間となります。南口広場の滞留空間の付近には、アクセントとして木材を使用しあたたかみを感じさせます。



床は通行部分は明るい無彩色でムラや凸凹のある質感を感じさせる素材とし、照明の光や自然光をやわらかく反射させることで明るい空間となります。滞留空間は明るさを抑えた無彩色で手作り感のある素材とし、置かれる木のベンチなどが目立つことで滞留を促すとともに、親しみやすい空間となります。





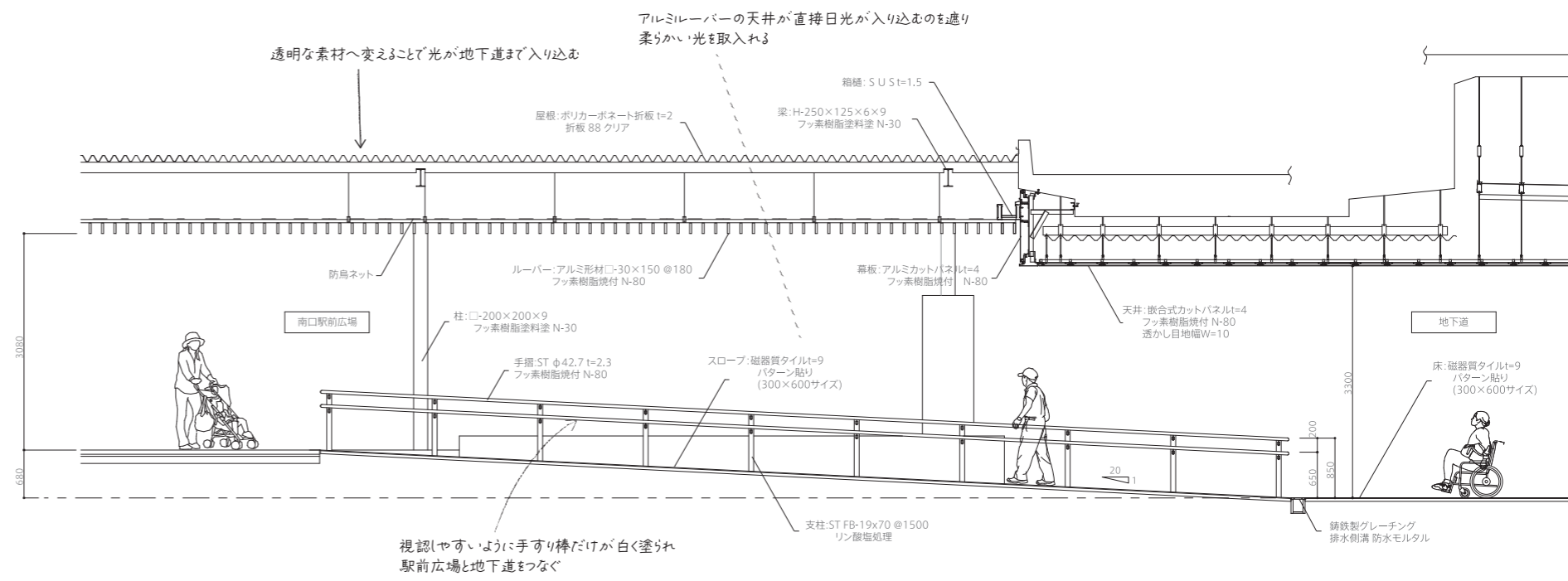
## 地下道とつなぐ

高蔵寺駅の最大の特徴でもある、幅10mの地下道。ダイナミックな空間ですが、線路の下ということもあってか、薄暗い印象に感じていた人もいたことでしょう。

そこで、地下道入口にはスロープ上まで陽の光が届く屋根を延長し、地下道の幅いっぱい光を採り込むことで、外の明るい雰囲気や地下でも感じられるようになり、より一体感のある雰囲気が生まれました。

また、歩行者用と車椅子用に分かれていたスロープも、車椅子用のゆるやかなスロープに合わせ、通路幅全体が駅前広場と一体化するよう改装。地下道から続く床の白いタイルが、駅前広場への連続性を高め、白い手すりや木製のシェルターの天井が、視覚的なつながりで誘ってくれます。



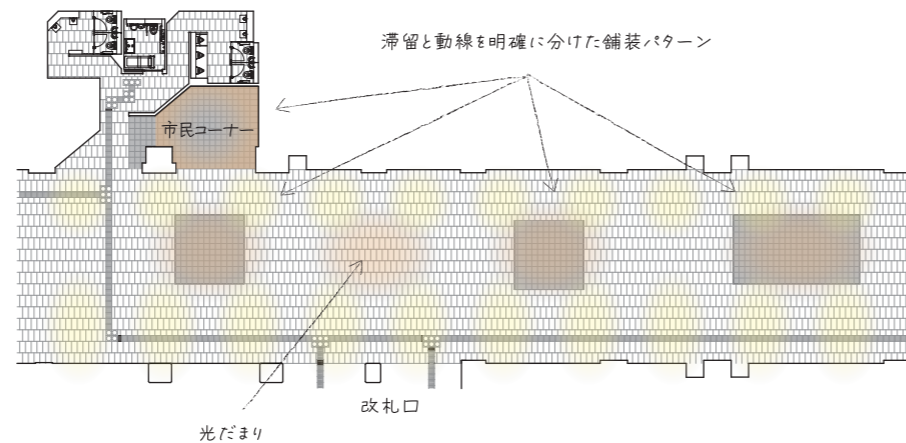


## 南北をつなぐ

通り過ぎるだけの通路にも、ちょっとした工夫があったら何かが始まる気配を感じるのでは？

駅前広場の明るい屋根は、白くリズムカルな天井となって地下道へと続き、軽やかな白さの床は、外から内まで一体となってつながっていきます。明かりで床に明暗のリズムをつくることで、南北に長い地下道が、木陰を歩くように変化に富んだ楽しい歩道となります。

通過するだけでなく、時には立ち止まって、腰をかけ、休憩して、おしゃべりを楽しむ。そんなはずむような日常が生まれる場所をめざしています。



## カタチでつなぐ

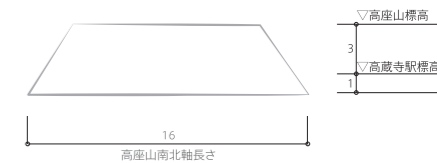
ニュータウンで最も標高の高い高森台と駅は、約100mもの高低差があり、比較的平坦に感じる駅周辺でも北口と南口で約4mの高低差があります。高蔵寺のまち全体が、庄内川から北へと緩やかに傾斜する地形を成しています。

さらに、高蔵寺エリアには、高座山をはじめニュータウンの街区形状や「台」を冠した地名など、探してみるとなるほど!「台形」をイメージさせるエレメントが多く見つかりました。

そうした地形の特徴を、「台形」というモチーフに落とし込み、随所様々なデザインに反映。これも新たな“まちあそび”のひとつです。



丘陵地を活かした  
高蔵寺ニュータウンの街区と道路の形状



高蔵寺ニュータウンや高座山の  
台地状の地形イメージ

## 光でつなぐ

灯りがある街って、あたたかく出迎えてくれているようで何だかホッとします。夕刻、明かりの灯った南口駅前広場は、とても優しい雰囲気。ロータリーをぐるりと大きく囲む屋根のライン照明が、大きく手を広げて「おかえりなさい!」と包み込んで迎えてくれるようです。

また、そうした演出だけでなく、ライン照明から床へと広角に落ちる光は、車道と歩道との境界を明るく照らしだし、駅を行き来する人々の安全を守る役目も果たしています。



## ！連載！ 駅のかお

初回は、南口駅前広場と地下道のリニューアル工事に際し、設計段階で関わった方々と関係者の声をご紹介します！



大野 暁彦  
名古屋立大学大学院  
芸術工学研究科准教授

ありそうでなかった「あったらいいな」と思う風景を目指しています。駅前広場はまちの中でも多くの人に長く使われる場所。目新しさより日々の生活に溶け込めるデザインかどうかを重要と考えています。長い時間の流れの中で気軽に楽しく愛着をもって使えるデザインこそ、日々の生活の中にも自然に馴染むもの。そんなことを考えながらデザインに関わりました。

市民コーナーの展示替えて「いつもありがとわ」と声をかけてもらえて嬉しかった！

ベンチや滞留スペースが増えて、イベントを企画するのが楽しい。



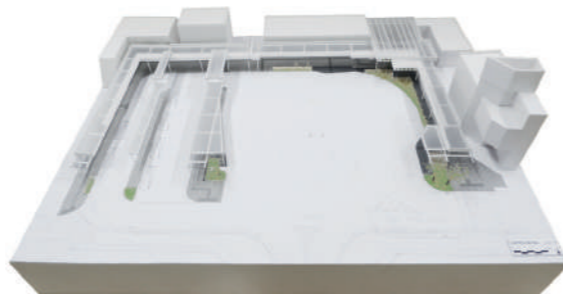
四方

屋根を透かして作ったことがポイントでした。明るい軒下の空間へ没入できる模型を目指しました。

シンプルな模型でも想像が膨らむよう、植栽にみたてたスポンジを1つずつ貼っていきました。



喜納



模型制作 大野暁彦研究室



小木曾 誠  
有限会社DEROスタッフ

心身の調子が良い日もあれば悪い日もある、そんな日常をおおらかに寛容に包み込むような、「家」のような駅前広場をイメージしながらデザインに関わらせていただきました。



安井 加奈子  
有限会社DEROスタッフ

計画中にイメージパースを描きました。南口の中でも、晴れた日の午前中に地面に落ちる屋根の影がお気に入りです。いつか駅のピアノをこっそり弾いてみたいと思っています。

家族や友だちとこの駅の話をしてくれるといいな！

いろんな人が愛着を持った駅前広場に  
なってくれるといいなと思います

リニューアルによって、みんなに駅の思い出が増えるといいな



市原 正人  
有限会社DERO代表取締役

駅を訪れる方はそれぞれ目的の違いはあるが、まちのみんなが誇れる駅にしたい！そんな想いをもちながら考えました。作ったら終わりではない、世の中の変化や利用者のニーズに合わせて使い方を換えられ、いつも高蔵寺らしさが感じられる駅「成長するまちの玄関」を目指してデザインしています。

コンセプトブックに携わりました  
駅であいましょう！  
駅前広場の完成が楽しみです

駅に帰ってきた人が  
自分の家に帰ってきたような  
落ちつける空間になってほしい！

駅であいましよう 1  
南口駅前広場と地下道  
発行元 春日井市

企画 高蔵寺駅周辺デザインチーム、高蔵寺まちづくり株式会社  
編集 株式会社ナゴノダナバンク  
印刷 高蔵寺まちづくり株式会社  
写真 高蔵寺駅周辺デザインチーム  
イラスト MAKO.pen&paper  
協力  
Special Thanks 模型/名古屋市立大学芸術工学部大野暁彦研究室  
テキスト編集/岩田舞海

WEB版もご覧いただけます。  
2022年10月 第1版発行  
2023年 7月 第2版発行

FREE

本誌に掲載されている情報は2023年7月時点のものです。データなどが変更になる場合もありますので、あらかじめご了承ください。